

かがやき事例

その11

今回はすずらん馬込からの報告です。

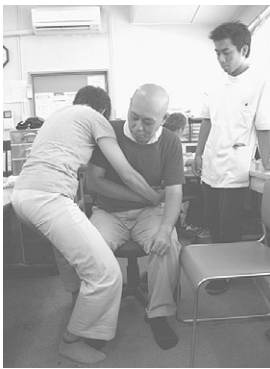
——*——

Aさんは慢性関節リウマチなどの病歴があり、関節の痛みで重い物が持てず、最初は、掃除・調理・買い物のサービスをやっていました。介護保険サービスについて内容をとても理解され、自立心も旺盛で、子どもたちに対して迷惑をかけずに在宅生活を送りたいという気持ちを持っており、長女もその気持ちに添うよう接していました。

同様に、ダシ汁をとったり、味付けをしたり、洗濯をしてシワができないように畳んで籠に入れ、ヘルパーが訪問した時に干せるようにしたり、メイヌメニユーを考え買い物リストを用意していました。

胃がんの手術後、リウマチの悪化にともない、それらも徐々にできなくなっていました。が、それでも軽い食器などの片付けを、時間をかけて自分ですべてしていました。

状態が悪化



介助訓練の様子

昨年10月下旬に胃痛を訴え、自分で救急車を呼び入院。約1か月で退院されましたが、状態は悪化。食事の量も少なくなり、ベッドからの起き上がりも介

相談する勇氣、他人を家に入れる勇氣を！

助け合いまちづくり委員会主催

5月12日(土)、学習会「知っておきたい介護のこと」が行われました。講師はケアマネジャーでヘルパーステーションすずらん所長の榎田政代さんです。

今年度改正された介護保険制度のあらましから老老介護の問題、2006年に起きた介護殺人の事例をとりあげ、どこかで防げたかもしれないその死角について講義してくれました。

それは、介護保険サービスについての正しい知識があれば、病院や行政に相談していれば防ぐことができたかもしれない悲しい事件でした。

日本は65歳以上の人口が2割を超える超高齢化社会に突入しているといえます。介護の問題は私たちにとって身近なそして切実な問題です。

事例のような悲劇をなくすために、介護で悩んでいる人たちに向けて無理なく続ける介護の秘訣は何か、それは、1人で抱え込まない、人に頼ること、介護に悩んだら地域包括センターへ相談することです。

「相談する勇氣、他人を家に入れる勇氣を持つてください。地域で気になる人がいたら、声をかけを、または地域包括セン

助が必要なくらいでした。それにともないケアも身体介護中心になり、訪問看護・往診も利用され、点滴でなんとか在宅生活を維持する状態でした。

Aさんの体調に合わせたケア

1月に入るとさらにADL(日常生活動作)が低下。ケアマネジャーより、夜、本人が長女に電話をして「寝返りができない」と訴えられ、長女は「仕事のため、すぐに帰れないので言われるのが辛い」。そこで夜間のケアを希望されていると連絡が入り了解しました。

日々、状態が変わるため、ケアマネジャーと連携を取りながら、ターなどに一声かけてください。これが介護SOSの架け橋になり最悪を防ぐことになる」とお話してくださいました。

参加された方からも「気軽に助けを求めるという姿勢の大切さについて身に染みて感じました」や「地域へ、ヘルパーさんたちの存在をもっととア



「知っておきたい介護」を学習しました

介護ホットラインのご案内

城南保健生協には5カ所の訪問介護事業所(ヘルパーステーション)があります。介護についてのご相談はお気軽に連絡をください。

ヘルパーさん大募集中です!! 一緒に働きませんか?

3762-0106 すずらん本部(平和島)

長女の言葉

3月中旬に永眠され、自宅に戻られたと聞き、最後の挨拶に訪問した時、長女から「本当に良くしていただきました。トイレで排泄したい想いは最後まであったので、車椅子でのトイレ介助を依頼した時、断られるかもしれないと思っていたのに引き受けていただいた、とてもありがたかったです。私だったら危なくて責任が持てないから断っていたかも…。それに、夜

プールしていかねければならぬいし、声かけも必要」などの感想が寄せられました。

生きる希望

また、入院の様子も教えていただき、亡くなる2、3日前に、「在宅は無理だから特養に入所の申し込みをしておいてね」と言われたそうで、最後まで生きることに希望を捨てず、Aさんらしく永眠されたことを知り、関わったヘルパーに感動を与えていただきました。

の訪問も人がいないのに残業で訪問していただいたのでは? 皮膚もとてもきれいにしていただいて、職場の人に話したら『それは良い事業所に当たったね!』と言われましたよ。ヘルパーさんがいたからギリギリまで家で過ごせました。ありがとうございました。」とお言葉をいただきました。



獅子頭の中に入って記念撮影



日本一大きい獅子頭



潮騒の湯で昼食を



全体会の様子



風土記の丘は桜が満開



めんたいパークで工場見学



公園を散策



春の健康バスハイク 「震災復興のパワーに触れ 元気を充電するツアー」

4月22日(日)、恒例のバスハイクに行きました。今回は昨年の東日本大震災で大きな被害を受けた茨城県の常陸石岡・大洗・那珂湊への旅でした。日本一大きな獅子頭のある風土記の丘、震災から今年3月にリニューアルオープンしたばかりの潮騒の湯、明太子の加工工場を見学できるめんたいパーク、そして那珂湊を訪れました。

お天気が心配されましたが、142人の参加で楽しい1日を過ごしました。